

## 第28回 検討委員会（平成29年11月8日）

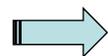
1. 二級河川佐濃谷川水系河川整備計画（原案）について
2. 由良川水系・二級水系河川整備計画検討委員会要綱の変更について

### 主な意見

委員会で回答

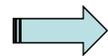
今回

1. 水位が整備計画水位となった場合、溢水までどの程度の余裕があるのか。



○整備計画水位の上に余裕高（0.8m）を設定しているため、整備計画水位となった場合でも余裕高分の余裕はある。

2. 佐濃谷川の下流域では、農業用の取水堰があり、ポンプアップしているところが結構ある。河道掘削による農業水利への影響をどのように考えているのか。



○工事を実施する前の計画段階で関係者と協議の上、可能な限り堰を統廃合し、取水する場所を少なくして、堰の数を減らしたいと考えている。

3. 下流部において、風の影響による潮位の遡上が佐濃谷川の溢水に影響するのか。



○佐濃谷川は海とつながっており、河口部は久美浜湾となっているが、風の影響による潮位の遡上で佐濃谷川からは、溢水していないと聞いている。

4. 流域の貯留・浸透施設の整備を推進するという方針はわかるが、具体的な内容は、実施の段階で考えていくという理解で良いか。



○貯留・浸透というのは、例えば透水性の舗装を進めていくとか、各戸で貯留をお願いするとか、河川管理者が具体的に何かということではなく、京丹後市や地域、関係部局と連携し、自然の保水機能を持つ土地等の整備・保全や流域内の貯留・浸透施設の整備等を推進したいと考えている。

## 第28回 検討委員会（平成29年11月8日）

主な意見

委員会で回答

今回

5. 京都府における二級河川の計画規模は、基本的に平成16年台風23号規模と考えているが、地球温暖化の影響が大きくなった場合、平成16年台風23号を基本としたままでよいのか。

⇒ ○基本方針では30年に1回の雨に対応できるような規模を想定してる。ただし、河川改修は下流から進めていくが、佐濃谷川は能力不足の箇所が非常に多く、大きな規模を目標に改修を進めていくと大幅に時間がかかり、その間に人家浸水被害が出る可能性がある。  
このため、整備計画では、平成16年台風23号規模への対策を実施し、その後、さらに気候の変動で状況が大きく変われば、計画の変更等を検討していきたいと考えている。

6. 今、身近な目の当たりにしているリスクを少なくするためには、資料に記載のとおり、ハード対策だけでなく、ソフト対策と兼ねながら対策するのが基本と考えている。  
ソフト対策については、昔と比べると地域との連携もよくなっているが、地域と連携することで、ソフト対策が生きてくると思う。
7. 分派は流れが複雑であるため、事前に均等配分の具体的な対応を想定するのは難しい。その代わりモニタリングを実施し、随時対応することが現実的である。  
形状から見ると比較的均等に流れると感覚的には思っている。簡単な計算をしてみると、一方が55%、一方が45%程度で、コントロールすれば均等配分に近くなるのかなと思っている。  
ただ河床の変動が起こるので、浚渫等の対応が必要になると思う。
8. 二級河川佐濃谷川水系河川整備計画（原案）はこれで良いか。

⇒ ○異議なし